

報道資料

令和2年12月23日

文化・教育・暮らし創造部

文化財保存課

記念物・埋蔵文化財係

担当者 光石鳴巳 内線 5341

田浦高志 内線 5346

廣岡孝信 内線 5346

Tel 0742-27-9866

のぼりおおじかわらがまあと

登大路瓦窯跡の現地保存について

要旨

1. 平成27年度に「文化会館・美術館及び周辺整備基本計画」において、文化会館と美術館の一体的な改修を予定していました。
その中で、当地は、美術館アネックスとしての整備を検討していましたが、平成29年度から着手した文化財発掘調査を実施したところ、学術的に重要な遺構群が発見されました。
2. 遺跡・遺構について、以下のような観点から重要なものであり、現地保存が適当と判断いたします。

遺構の時期

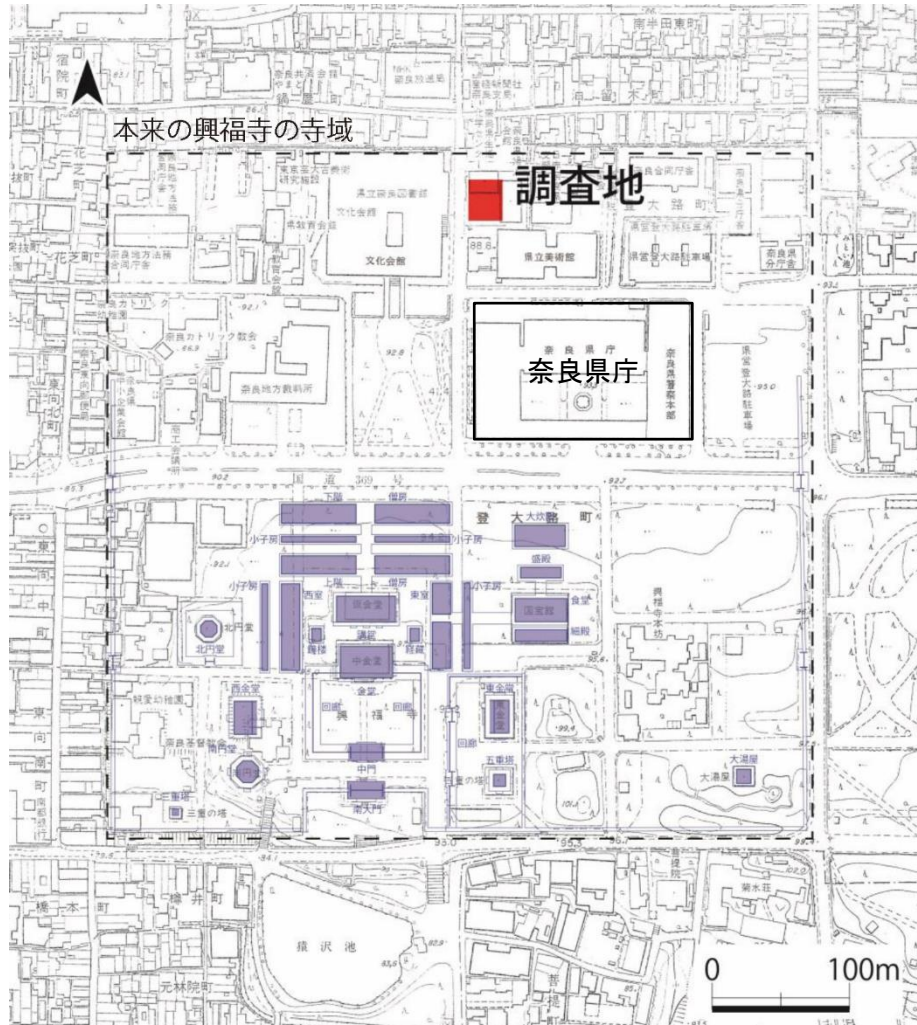
瓦窯の構造、出土遺物から、瓦窯の操業開始年代は奈良時代後半に遡る。
11世紀後半（『造興福寺記』の時代）、12世紀後半にも操業が続くことを確認。

遺構の残り具合

存置した瓦窯（とくに窯E・F）は良好に残り、構造がよくわかる。

瓦窯の性格

1. 『興福寺流記』に記載のある通称「西瓦屋」の可能性があり、740～750年頃から興福寺の瓦を供給していた瓦窯とみられる。主要伽藍完成後の興福寺の瓦を供給した瓦窯として評価できる。
2. 興福寺の造営に関わる3つの瓦窯（下記）のひとつ。
 - ①梅谷瓦窯 興福寺創建時の瓦を供給（史跡奈良山瓦窯跡群のひとつ；木津川市）
 - ②荒池瓦窯 720年頃から興福寺の瓦を供給（名勝奈良公園内に所在）
 - ③通称「西瓦屋」（登大路瓦窯跡）
3. 中世にも連綿と瓦窯としての利用が続いた。
4. 大寺（興福寺）の造瓦体制の変遷を知る上できわめて重要である。



登大路瓦窯跡の位置



登大路瓦窯跡（上空からの写真）



窯E



窯F